

「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」中間報告

新潟県南魚沼郡大和町

1 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

(1) 平成 14 年度 9 月 1 日現在の推進地域内の児童生徒数

ア 海外帰国児童生徒数	0 名
イ 中国等帰国児童生徒数	0 名
ウ 日本語指導が必要な外国人児童生徒数	18 名
(浦佐小 14 名 大和中 4 名)	

(2) 推進地域の特色

昭和 58 年、当町に大学院大学「国際大学」が開学した。国際大学は現在、欧米、アジア、アフリカなど 49 か国、226 人の留学生が学んでいる。大学院大学ということで留学生の年齢も様々で、最近ではアセアンの国々を中心に家族と一緒に来町する留学生も多くなってきた。

地元の小中学校への児童生徒の編入は、当初、大学の教授の子女が多かったが、次第に留学生の子女の方が多くなっている。

留学生は、直接大和町に入ってくる場合と、他県で学んでくる場合があり、後者の場合は多少ではあるが日本語を理解してくる児童もある。しかし、日本人児童と同じく学習を進めるには、日本語指導や適応指導が必要である。現在、浦佐小学校に 20 名、大和中学校に 4 名の外国人児童生徒が在籍している。また、最近では、国際結婚により外国から編入する場合もある。

(3) 帰国・外国人児童生徒の実態

教授等の子女で幼い頃から日本に住んでいる児童は、日本人とほぼ同じように日本語が使える、日本語指導の必要がない。しかし、留学生の子女は、多少日本語が使える場合もあるが、簡単な日常会話程度であり、日本人児童と学習を進めていくには継続的な日本語指導が必要である。

言葉が分からないうちは、児童同士のトラブルもある。また、授業のあり方や持ち物、準備等についても言葉の問題から、うまく伝わらない場合もある。しかし、日本語が理解できるようになると、そうしたトラブルは少なくなる。

イスラム教の児童生徒は食べ物の制限があるため、学校の方で給食の献立について肉・豚肉が使われているかをチェックしている。食べられるものだけ食べる、あるいは、家庭からお弁当を持ってくるなどして対応している。また、ラマダン(断食月)中はイスラムの児童だけ、給食中別教室で過ごさせるようにしている。中学生になると、週 1 度礼拝に出かけている。

2 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域センター校の概要

(1) 大和町立浦佐小学校 校長 岡村 勝

新潟県南魚沼郡大和町大字浦佐 5278 番地 1

025-777-2040 Fax 025-777-4773

e-mail urasa@po.next.ne.jp

ホームページアドレス <http://www2.next.ne.jp/~urasa/>

上越線、上越新幹線浦佐駅より 徒歩 10 分

(2) 日本語指導を受けている児童生徒数（平成 14 年 9 月 1 日現在）

- ・浦佐小学校（在籍する外国人児童数 19 名）

マレーシア語 11 名 タガログ語 1 名 中国語 1 名 韓国語 1 名

- ・大和中学校（在籍する外国人生徒数 4 名）

マレーシア語 4 名

センター校への通級はない。

(3) センター校での指導時間及び指導内容

加配教員を中心として、外国人児童への日本語指導を行っている。基本的に、学年ごとに外国人児童をグループにし、そのグループごとに週 2 時間から 5 時間、交流教室(日本語指導を行う教室)で、日本語指導を行っている。

文部科学省の指導資料や自作の教材を使い、学校生活で必要とされる単語や会話を基礎から順に指導している。また、時には、日本語指導だけでなく、教室での教科学習の補修や学校生活の中での外国人児童の悩みを聞くような場にもなっている。

(4) センター校を中心とする帰国・外国人児童生徒指導協力体制について

大和中学校に町で採用した日本語指導助手が在籍している。浦佐小学校の外国人児童担当教師、大和中の担当教師と日本語指導助手で連絡を取りあったり、指導法について研修をしたりしながら、指導を進めている。日本語指導助手は週 4 回、小学校でも指導にあたっている。

3 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

(1) 教育国際化推進連絡協議会の概要

ア 構成員

○会長 大和町教育長

○副会長 センター校長、国際交流ボランティア団体代表

○委員(10 名) 国際大学学生センター事務局、大和中学校長、小中学校担当教諭(3 名)、保育所長(3 名)、幼稚園主任

○事務局 学校教育課長、学校教育係長、センター校教頭

イ 活動状況

○6月12日 第1回協議会...事業の概要説明、外国人児童生徒教育の現状について、今後の日程について、情報交換

- ・国際理解教育講座の企画運営（10月、2月）
- ・日本語指導研修会の企画運営（11月、12月）
- ・まとめの広報誌作成（3月）

○3月26日 第2回協議会...今年度の取組内容について、実践研究主題の取組結果について、今年度の課題と来年度の計画について、情報交換

ウ 協議会設置の効果

国際大学があり、人口に対し外国人の数が多く、また、町内の小中学校で学ぶ外国人児童生徒の数が20人以上いるという現状でありながら、今まで、なかなか関係団体で集まったり、教育の進め方や交流のあり方について協議する場がなかった。しかし、本協議会設置により、それぞれの団体の課題を理解し合ったり、よりよい連携のあり方を協議したりすることができた。また、教育講座、研修会では、幼稚園、保育所、小・中学校、国際交流協会、国際大学、ボランティア団体、行政関係者がともに学び、今後の方向を探ることができたのは大きな成果であった。

(2) 加配教員の活用状況

加配教員は、主に、センター校で大和中学校の日本語指導助手と協力し、外国人児童の日本語指導にあたっている。また、外国人児童のアフタースクールで協力いただいている、国際交流のボランティアグループ「SFC」との連絡調整などを受け持っている。

(3) 教育相談員の派遣状況及びその効果

派遣なし

4 平成14年度の具体的な取組内容とその成果等について

(1) 研究主題

地域に在住する外国人の方は、ほぼ国際大学の職員や留学生に限られるが、このほか、国際結婚によって当町内に在住している人もわずかであるが、これらの方々も、文化や主観の違いに悩みを抱えていると聞く。

それらを念頭に置き、外国籍、または結婚により日本国籍となった人たちの子ども達がお互いに理解し合い、共に暮らしやすい地域社会となるように、次のような研究主題を設定する。

ア 外国人児童生徒とその他の児童生徒との相互啓発による国際理解、異文化理解を推進していく。

イ 外国人児童生徒への日本語指導を含めた指導、交流のあり方を模索・追求していく。

ウ 教育の国際化を推進するため保育所・幼稚園・学校と地域、また、地域の国際交流協会やボランティア団体との連携のあり方を模索・追求していく。

(2) 研究主題に関連した活動及びその成果

ア センター校を中心とした国際理解教育や国際交流の推進

町採用のALTとともに行う英語活動(町内各小学校)
総合的な学習等で進める国際理解教育(町内各小中学校)

- ・国際大学留学生や外国人児童の保護者とともに、遊びや歌、踊りなどを通し、外国の文化、教育、環境問題を学ぶ(各小学校)
- ・講師を招いての中国語講座(大和中学校)

○ジュニア国際交歓会の実施

- ・国際大学の留学生と町内小学生との交流(各小学校年間2~3回)

イ 国際理解講座の実施

○第1回「国際理解教育って何?」~そのねらいと実践への基本課題~

10月12日(土) 講師 早稲田大学教授 山西 優二 様
参加者 45名

○第2回「国際理解教育にみる学校と地域の連携」

2月8日(土) 講師 早稲田大学教授 山西 優二 様
参加者 30名

ウ 日本語指導研修会の実施

○第1回「地域日本語共有活動を推進するために」

- ・子どもとの関係づくり ・学校おける日本語支援活動

11月29日(金) 講師 武蔵野市国際交流協会
杉澤 経子 様 宮崎 妙子 様 河北 祐子 様

○第2回「地域日本語共有活動を推進するために」

- ・子どもたちの学習支援の課題と地域ネットワーク
- ・学習に役立つアクティビティとフィードバック

12月13日(金) 講師 武蔵野市国際交流協会
宮崎 妙子 様 河北 祐子 様 参加者2回 合計45名

エ 幼稚園、保育所、小・中学校及び地域との連携

幼稚園、保育所と小学校については従来から連絡会を年2回開いていたが、近年外国人児童の入学にかかわって情報交換が密になっている。小中学校では、日本語指導の教材を紹介しあったり、日本語指導のあり方について連絡を取り合ったりしながら指導を進めている。

うおぬま国際交流協会「夢っくす」、国際交流ボランティアグループ「S・F・C」とは、国際理解教育講座、日本語研修会でともに学び、日ごろから連携を大切にしている。

オ 今年度の成果

小中学校での国際理解教育、国際交流では、国際大学留学生、外国人児童生徒の保護者の協力により、充実した活動が展開された。また、それぞれ2回の国際理解教育講座、日本語指導研修会では、主に、国際理解教育の理念、現状の把握と今後の方向、児童生徒との人間関係作りなどについて学びを深めることができた。

何より、この事業により、今まで、それぞれ国際交流や国際理解教育、外国人児童生徒指導に携わってきた団体や個人が、共に学ぶ場ができたこと、お互いの情報

交換や連携がより深まったことが成果としてあげられる。

(3) 推進地域としての取組及びその成果

大和町としての独自の取組は以下のとおりである。

○町でのALTの採用。町内の全小学校での英語活動の推進

○町での日本語指導助手の採用。大和中学校、浦佐小学校の日本語指導の支援

○町内全小学校でのジュニア国際交歓会の実施

○公民館での英会話教室の開催

国際大学があり、外国人居住者や外国人児童生徒が多いという環境の中で、外国人や外国人児童生徒に対する支援と町民との交流に主眼を置いて取り組んできた。大学を離れての交流の場が広がってきている。また、小中学校の活動に対する支援の中では、継続しての交流も芽生えてきている。外国人児童生徒の日本語指導については、一定の成果をあげているが十分ではない。児童生徒の数に対して、指導する教員の数そのものが不足しているのが現状である。また、短期の滞在ではなく、日本に永住する外国人児童生徒に対する学習指導や進路指導体制の確立が急務である。

(4) 帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発の観点による取組及びその成果

ア 日常の授業や生活の中で

外国人児童も日本人児童も、ともに楽しく充実した学校生活を送ることが基本と考える。浦佐小学校では、各クラスに数名の外国人児童が在籍しているのが当たり前になっている。児童も、当然のことと受け入れ共に学ぶ姿が見られる。

日本語がまだうまくできない時期は、外国籍児童担当職員と担任教師が連絡を密にして支援していくこと、家庭とも連絡を取り合い、不安を出来るだけ取り除き安心して学校で生活できる環境、基盤作りに努める。ある程度慣れてきた段階で、児童同士の活動の場を次第に増やしていき、ともに活動できるようにしていくことが大切である。

イ 行事などの中で児童朝会でマレーシアの児童が「マレーシアの学校と日本の学校のちがいを」を全校の前で発表した。学校のあり方や制度の違いなど、児童も教師も学ぶことが出来た。

また、学習発表会では、マレーシアの歌、フィリピンのダンスなどを保護者の協力のもと一緒に歌ったり、踊ったりすることが出来た。

これらは、日本人児童にとっては、外国の文化に触れ、理解を深める大変よい機会になっている。また、外国人児童生徒にとっても、自国の文化を日本人児童生徒に紹介することは喜びであり、自国の文化と日本の文化の違いをとらえる場になっている。

(5) 地域と連携した活動(民間企業、地域の人材の活用状況等)及びその成果

ア 日本語指導ボランティア

浦佐小学校に6月、フィリピンから編入した児童に対する日本語指導を、地域の3名のボランティアの方をお願いした。当初日本語が全くわからない状況であったが

日本語指導担当教師と協力して指導にあたっていただき、効果が上がった。

イ アフタースクールの実施

9月より、外国籍児童に対するアフタースクールを開始した。ボランティアグループ「SFC」の協力により、日本の遊びや伝統行事の紹介などを中心に行った。毎回、SFCから大勢参加いただき、交流が行われている。

(6) 連携した団体等の概要

ア うおぬま国際交流協会「夢っくす」

平成14年5月に設立された魚沼地区の国際交流協会。国際大学留学生、地域に住む外国人に対する日本語指導や、各種支援、これら外国人と地域の方々との交流の場の設定、研修会などを行っている。国際理解教育講座、日本語指導研修会の講師を紹介していただいた。

イ スノー・フレックス・クラブ「SFC」

大和町に住む外国籍児童生徒、その家族と日本人住民が助け合い、学び合う交流を行うための国際交流ボランティアグループ。国際大学でフリーマーケット、ギャザリング、豆まきや雛祭りの紹介、バス旅行などの活動を行っている。浦佐小学校の外国籍児童を対象としたアフタースクールにご協力いただいた。

(7) その他特筆すべき平成14年度の成果と課題

前述のように、今まで、国際交流や国際理解教育、外国人児童生徒の指導に携わってきた団体や人々が、共通する問題について協議したり、そのあり方を考えたり、研修会で共に学んだりする機会ができたのが大きな成果である。そのことにより、連携、協力し合う場面が増えてきている。

しかし、ようやくスタートしたばかりの感もあり、今後、より実践的・具体的な研修を積み重ねていくこと、連携、協力し合う場面をさらに増やすとともに、内容を充実させ、地域全体の取組へと広げていきたい。

(8) 平成15年度の課題及び事業計画

ア 基本的に14年度の事業内容を踏襲するが、研修会・講習会の内容はより実践的、具体的なものにしていく。

イ 先進地域(学校)を視察し、現場の実際の指導のあり方や地域連携のあり方について一層研究を深めていく。

ウ 幼稚園、保育所、小・中学校、国際交流協会やボランティア団体との連携、協力を一層進めていく。

エ 今後の予定

5月 教育国際化推進連絡協議会、外国人児童に対するアフタースクール開始

6月 国際交歓会、外国人児童生徒保護者会開催、日本語指導講習会、先進地域(学校)視察

7月 国際理解教育研修会、帰国・外国人児童生徒教育研究協議会への参加

8月 日本語指導研修会

9月 国際交歓会、教育相談研修会

- 10月 小中学校の諸行事に保護者、留学生の参加
- 11月 国際理解教育研修会
- 12月 日本語指導研修会
- 1月 国際交歓会、日本語指導研修会
- 2月 教育国際化推進連絡協議会
- 研究のまとめと反省、報告書の作成
- 研究委員会が必要に応じて開催